

## 令和 4 (2022) 年度 基盤研究 (S) 審査結果の所見

研究課題名	時間生物学に立脚した時間医薬イノベーション
研究代表者	土居 雅夫 (京都大学・薬学研究科・教授) ※令和 4 (2022) 年 6 月末現在
研究期間	令和 4 (2022) 年度～令和 8 (2026) 年度
科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見	<p><b>【課題の概要】</b></p> <p>本研究は、時間をコントロールして病気を治す一を合言葉に、これまでの疾患概念や創薬のあり方に革新的な視座をもたらすだけでなく、具体的な unmet medical needs に対する革新的治療法・治療薬を提案するための基礎研究である。具体的には、体内時計の中枢を標的とした生体リズム調整薬の開発であり、不眠症、加齢性眼疾患、がん、アルツハイマー病に適用するための体内時計の分子機構の制御と活用に基づく新しい作用機序の治療薬の開発である。</p>
	<p><b>【学術的意義、期待される研究成果等】</b></p> <p>生体時計の是正による治療という革新的なテーマであり、応募者のこれまでの成果である脳内の視交叉上核 (SCN) に特異的な G 蛋白質共役受容体 (GPCR) をターゲットとした本研究内容は独創的である。世界に先駆けて「時間生物学の医学・薬学分野における創造的価値」の検証に挑む研究であり、新たな疾患改善・治療につながる可能性もあることから、社会へのインパクトも大きいと期待される。テーマによってはかなり挑戦的な内容も含まれているが、研究実績もあり学術的に新機軸を生み出す可能性がある。本研究の遂行により、従来の疾患概念に基づく創薬にパラダイムシフトを起こし、生体時計という新たな視点から疾患理解と治療法開発が進むことが期待される。</p>